

# 震災津波、生態系乱す

岩手・大槌

## 川と海でイトヨ交雑

学)は「津波が生態系に与えてきた影響を知る手掛かりになる」と話す。

イトヨは体長5センチ前後でトゲウオ科の魚。福井県大野市では、生息地が国の天然記念物に指定されている。大槌町には川にすむ淡水型と、普段は海で暮らし、産卵のために川をさかのぼる遡河型の両方がいる。

東日本大震災の津波により、岩手県大槌町で川と海に分かれて生息していた別種の「イトヨ」が交じり合い、交雑種が誕生していたことが分かった。調査した岐阜経済大学の森誠一教授(淡水生態

1997年から本格的に大槌町のイトヨを調べてきた森教授は震災後、新たに町中心部にできたため池のうち、約50カ所でイトヨを採取。遺伝子を調べた結果、震災前には見られなかった両方の特徴を持つ種が生まれていた。